

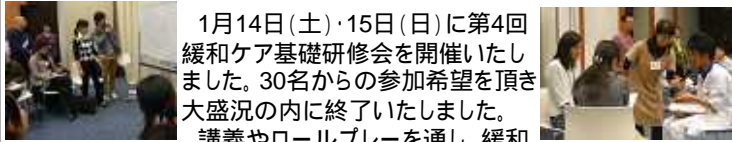
三河のつばき

新しい年となり、昨日(1月24日)は大変な雪が降り、インフルエンザが流行し始めました。当院も例年通りベッドが満床となり、3次救急だけは断ることのないよう院内各所が必死に対応しております。全てが冬の常とはいいいながらも、最後のことは改善方法を考えなければなりません。この状況は地域のどの病院も同じだと思います。だからこそあきらめずに解決する方法を考え続ける必要があると思います。

がん地域連携室 室長 三河 貴裕



第4回緩和ケア基礎研修会



1月14日(土)・15日(日)に第4回緩和ケア基礎研修会を開催いたしました。30名からの参加希望を頂き大盛況の内に終了いたしました。

講義やロールプレーを通じ、緩和ケアの基礎知識を学ぶいただきました。ロールプレーでは多職種から様々な意見が交わされて、普段緩和ケアに関わりのある方もない方も、再度緩和ケアに関して考えていただく良い機会となりました。

研修会後のアンケートからは「2日間に及ぶ研修だったが、大変有意義だった」等、皆様から高い評価を頂きました。

毎年開催いたしますので、是非ご参加下さいませようお願い致します。



TOPICS

安房地域勉強会のご案内【化学療法患者の薬剤管理勉強会】

日時: 2012年2月17日(金) 18:45 ~ 20:00

場所: 安房地域医療センター

講演会のご案内 会場は全て亀田総合病院13階ホライゾンです

[1] 化学療法患者の栄養管理講演会

日程: 2012年2月15日(水) 18:00 ~ 19:30

講師: 医療法人川崎病院 外科統括部長 井上善文先生

[2] 腫瘍内科講演会(消化器がんの化学療法の話と腫瘍内科医の今後)

日程: 2012年2月20日(月) 18:00 ~ 19:30

講師: 愛知県がんセンター中央病院薬物療法部 医長 設楽紘平先生

[3] がん化学療法看護講演会

日程: 2012年2月28日(火) 18:00 ~ 19:30

講師: 癌研有明病院 がん専門看護師 花出正美先生

[4] がんのリハビリテーション講演会

日程: 2012年3月7日(水) 18:00 ~ 19:30

講師: 広島大学大学院保健学研究科 教授 岡村仁先生

[5] 第4回房総がんケアフォーラム 詳細は同封の資料をご覧ください

日程: 2012年3月10日(土) 13:30 ~ 16:00

講師: 高野山大学スピリチュアルケア科 准教授 井上ウイマラ先生

参加ご希望の方は事務局までお申込下さい。

有床総合病院精神科と地域連携

心療内科・精神科 部長 小石川 比良来

2005年7月に亀田総合病院に41床の精神科病棟を開設してから7年以上の時間が経過し、この間総合病院精神科の新たな可能性を求めて模索を続けてきました。開棟に際し掲げた理念の一つがAlliance(医療連携)です。病床数の少ない総合病院精神科が持つ医療資源を最大限に活用して地域医療への貢献を図るには、病院外の精神科病院や一般病院、診療所や保健所などのダイナミックな連携が不可欠であり、また期待される役割を十全に果たし亀田の一般科の持つ力を引き出すための病院内での連携を組織的に行う必要があると考えたからです。現在それはリエゾンチーム(PSWも構成員)を精神科内部に創設し機能させるという形で具現化しており医療の質の向上に向けて確実に歩を進めている段階です。

実は元々、総合病院精神科の存在そのものが医療連携、地域連携を促進する意味合いをもっています。身体疾患における精神疾患の合併や精神疾患における身体疾患の合併は不可避免的に発生しますし、また現在の医療全体の中では救急医療、自殺対策、緩和医療などの分野において一般医療と精神医療の連携のニーズは拡大し続けているからです。こうした事情を考えますと精神疾患と身体疾患を同時に診療できる総合病院精神科、特に病棟を持つ精神科のニーズは高く、医療全体の質の向上に大きく貢献できると思われます。残念なことに医療政策全体の中に総合病院精神科の重要性が的確に位置づけられているとはまだ言えない状態にあります。近年診療報酬面で改善が認められつつあり、喧伝されるチーム医療の推進という理念もこの方向を推進する可能性が高いと思われます。今後私達は安房地域医療圏全体を常に視野にいれながら当院精神科の治療システムをより洗練されかつ機動的なものにするために努力を重ねたいと考えておりますので、関係する諸病院、諸機関のご理解を得られればこれにまさる喜びはありません。

仲間入り



川上 新仁郎院長

川上 新仁郎院長

皆様、明けましておめでとうございます。今年も昨年同様、何卒宜しく御願い申し上げます。さて、2011年は皆様にとってどんな年だったのでしょうか？少なくともあの地震と津波、その後の原発事故は何らかの形で皆様の日常生活に影を落とした出来事ではないでしょうか？復興支援に行けた方、行きたくても行けなかった方、「絆」という言葉を聞かない日はありませんでした。

あっ、申し遅れましたが、勝浦市興津で開業しております、川上新仁郎と申します。日大卒で学生時代はアメリカンフットボールを、日大消化器外科入局後は消化器癌手術治療を主体に行ない、その後、臓器移植を学びに渡米、技術的な問題よりも、我が国の移植医療のシステムの問題点を実感、大学退職し、神奈川県内のがん拠点病院外科勤務後、2007年より継承開業しております。

当地域との「絆」は大正5年に祖父が当地に開業し、それを父が引継ぎ、深めていった経緯があり、亀田総合病院とは祖父が開業前後に勤務していたようでそのころからのお付き合いと聞いております。勤務医時代には、がん術後5年間の経過観察や移植手術後の術後管理の日々が非常に長く感じておりましたが、最近、開業医ってのはもっとどっぷりとその地域に浸ることなんだと実感しております。よって、独りで出来ることの「限界」を理解して、仲間と連携することの重要性も少しずつ理解して来た状況です。受け売りなのですが、「絆」って繋がりの意味かと思っていましたが、本来は、動物(馬、犬、鷹など)を繋ぎ止める綱のことらしいです。ルールに従って繋がりますよということなのでしょうかね？

アメフトも外科医時代もいずれもいい仲間とやってきました、この故郷でも新しい仲間を迎え入れられようように精進したいと思います。疑問や不明な点がありましたら何なりと御連絡下さい。今後とも御指導御鞭撻の程、宜しく御願い致します。

亀田総合病院/地域医療支援部・地域医療連携室
発行責任者: 亀田 信介
編集責任者: 唐鎌 房子
TEL: 04-7099-1261(内線7156)